

# 足音

五月二十四日  
石巻中一年  
学年通信No.十二

編集・発行

鈴木 孝明

一生懸命が美しい

一日の延期を経て、快晴の中迎えた体育祭。朝、昇降口に集まるみんなは笑顔とやる気に満ち溢れていた。

開会式。全校が一斉にそろったその光景。やっぱりいいなど、強く感じた。「みんなまで」やれるって本当にすばらしく、有難いことだと思う。

一年生のスタート種目は全員リレー。元気がいっぱいストライドで、バトンをつないでいく。走っている途中、足を痛め、片足を引きずりながら最後まで走り通した人がいる。運ばれた救護テントでこみ上げてくる感情。流れた涙は、痛みからではなく、き



っと悔しさだろう。もっと走りたかった。クラスのためにもっと走りたかった。

種目の間、けがによる欠場で、急きよ補欠を組むクラス。実行委員の仕事で担任の先生の手が離せない中、自分たちでしっかりと決めていく姿は、本当に立派だった。

二種目、障害物リレー。練習よりもスムーズに行くところがあれば、思いがあふれるからこそ、失敗もある。ポールを落とすとすぐに仲間をサポートする声がたくさん聞こえてきた。こういう声が、本当に尊いものだと思う。

午前の最終種目、学級選抜リレー。そこで記録した二組女子の一年生歴代最高記録。約三秒ほど縮めた



衝撃的ジャイアントステップだった。先輩たちの圧倒的なスピード感にも驚いたことだろう。一年後、二年後のみんなの姿だ。そして最終種目、団結ジャンプ。いつもより高く、強いジャンプ。そろそろ空中姿勢と足音。回し手も、みんなの足の下を通すように、懸命に腰を折る。その一回に、この一瞬に込めた思いの強さを知る。繋ぎたい思いがあることを知る。一生懸命が美しいと思った。

こうして終えた初めての体育祭。熱く、さわやかで、一生懸命なすばらしい一日だった。二組、優勝おめでとう。一組、三組、四組もすばらしい頑張りだった。そして、実行委員のみんな、最後まで本当にご苦労様でした。この体育祭を成功させた最も尊い働きだった。

この体育祭での一步を、これからの日々に繋いでいこう。

